

の葉のごとくなればなり、所々山中に多ク有り、一種花に黄筋もほしもなく極テ白花成ル有り。
 うきうゆりと云、此種はりうきうより渡りたる物也、外科に用ル、又一種丹卷オニユリといふ有、花赤くや
 えとひとへ有て、花中に黒きほしあり、六月咲、余草花まれなる時節に花さくゆへ、尤ながめあり、
 根は料理につかふ味よし、外のゆりは味苦クして不食、丹卷は葉の間ニ黒く實あり取て植べし、
 此外花をあいす、百合數種有是は藥種の分、

〔剪花翁傳二月開花〕春透百合はるすかしゆり 花淡赤色、開花二月下旬より三月中旬迄あり、方日向、地二分濕、土
 回塵、肥芥土をおくべし、淡小便秋彼岸より春花前迄、月々二三度宛澆ぐべし、移秋彼岸よし、已下
 の諸百合育方並び同じ、

〔剪花翁傳五月開花〕千艸百合ちくそう 花の色眞百合の色よりも甚濃し、開花五月上旬なり、

姫百合 花の色赤地あり、黄地あり、兩種とも赤むらさきの色の點斑入なり、開花五月上旬なり、

唐子からこ 花の色朱にして、葩厚く丸し、開花五月上旬也、

京百合きやう 花の色黄にして赤み淺し、開花五月上旬也、

太田百合おまた 花の色黄にして赤みふかし、開花五月上旬也、○中略

最上百合もがさ 花は並百合のごとし、されど英垂低かずして悉く仰き咲、甚奇花也、開花五月下旬な
 り、

竹島百合たけしま 花眞白なり、開花五月下旬なり、

鬼百合おに 花の色赤く濃赤の點斑入なり、開花五月末也、莖高さ六尺にもおよぶものは枝四方に
 出て、一房をなせり、英すくなきは六七筒ばかり、多きは三十英も生いつるなり、

〔剪花翁傳三月開花〕鹿の子百合かの子 花地白に赤茶の飛點少し入なり、又淡赤紫の鹿の子斑入なる
 もあり、開花六月中旬なり、